

次世代につなごう平和のバトン

—平和講座・参加者の声—



第 743 号

2022年 1 月 5 日
(令和 4 年)

「くくにたち公民館だより」
ホームページの QR コード ▶



発行

国立市公民館

〒186-0004

国立市中1-15-1

TEL 042-572-5141

FAX 042-573-0480

休館日：毎週月曜日



講師の吉田裕さん

日清戦争以来、日本の対アジア侵略戦争の歴史は、戦後生まれのものとしても重く向き合っていく

人権の視点から捉えなおす戦争

—「日本軍兵士から見たアジア太平洋戦争と戦後史」—

に参加して—

岩上 照司

公民館では令和3年度、9月と10月に平和について考える講座を2つ実施しました。終戦から76年が経過し、戦争体験者の話を聞く機会は減りつつあります。そんな中、私たちが今一度戦争に向きあう必要性や大切さ、さらに次世代へどう伝えていくのかなどを、改めて考える機会となりました。それぞれの講座に参加された方の感想を、ご紹介いたします。

日清戦争以来、日本の対アジア侵略戦争の歴史は、戦後生まれのものとしても重く向き合っていくべき課題です。ただ、これまで戦争の歴史は国家間の歴史として語られてきた側面が強いのではないのでしょうか。確かに植民地支配や国家主権侵害はそれ自体厳しく指弾されるべき事柄でしょうが、そこに生きてきた、戦争の歴史を強いられてきた一般市民の目線にたつて、つまり人権の視点から改めて捉えなおしてみることがとても

大切なように思います。

吉田裕先生の講座は、兵士のおかれていた軍隊生活の現実から、侵略戦争とそれを推し進めた天皇主権の政治体制を告発するとてもユニークなものであり、新鮮な驚きをもって拝聴できました。たとえば、兵站を整備せず現地調達主義から戦地での略奪行為が日常化したこと、補給路が断たれ、かつ降伏を認めないことから「英霊」死の大半が飢餓死となったこと、さらに医療体制の不備が多量の兵士を苦しめ死に追いやった問題、日米間の物量格差が兵士に異常な肉体的・精神的負担を強いた問題などです。

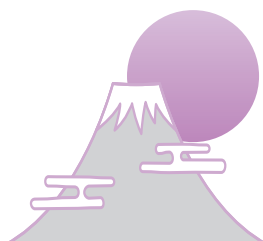
先生は、被害者でありながらも加害行為を果たした兵士の戦後の生き方にも言及されました。私は「戦友会」「日本遺族会」「靖国神社」は一直線につながり、戦前の国家史観を支える有力な勢力を構



戦場の兵士たちについてお話を聞きました

成しているのではないかと勝手に考えていましたが、そんなに単純ではないことを教えられました。個々の旧兵士は、戦争の実態と自身の関わりを公言することなく、その限りでむしろ内向きに過こされてきた方が多数なのでしょうか。戦後70数年が経過し、それぞれの時代意識も変容し、体験を語られる場面も広がってきたようですが、私たちがそこどのように向き合おうかが問われているのだと思います。

(2021年10月16日・24日実施)



戦争を次世代へ伝える新しいかたち

「AIとカラー化した写真でよみがえる戦前・戦争」

に参加してー

瀬尾 スミ江

この度、国立市公民館講座「AIとカラー化した写真でよみがえる戦前・戦争」を受講させていただきました。

講師の庭田杏珠氏、そして渡邊英徳教授の行っている「記憶の解凍」プロジェクトは、無機質でどこか他人ごととして感じられがちな白黒写真を、AI(人工知能)と人の力でカラー化して今の日常と地続きにすることで、戦争体験者の想い・記憶を継承していこうというプロジェクトです。体験者との長期間の対話を経て行うカラー化は、単なるカラー化とは一線を画します。AIでカラー化した写真をもとに対話をし、それを踏まえた色補正をする。そしてさら



講師の庭田杏珠さん

なる対話と、さらなる色補正を何度も行っていく。体験者の記憶を形にしてよみがえらせ「解凍していく」地道で果ての無い作業です。1枚の写真を仕上げるのに、数ヶ月、あるいはさらなる期間をかけていくとのこと。そうしてよみがえった写真は、色、温度、おい

……その時代を生きた人々とまじの息づかいが立ちのぼってくる、私たちと地続きの日常を感じられる、まさに「記憶の解凍」の名前にふさわしいものでした。関心・当事者意識の薄れがちな世代も含め、戦争と平和を「自分ごと」としてとらえられる場をいかに作っていくか。日常がたつた一発の原子爆弾によって壊された、76年前に起きたできごととは、原発や核兵器が世界中に存在している今、私たちの日常でも起こりうることなのではないか。庭田さんの言葉が印象に残りました。

近年では「記憶の解凍」プロジェクトは国際会議での発表・展示



戦争体験者との対話の中から、平和について考える機会になりました

会やミュージシャンとのコラボによる映像作品、アプリの作成、各メディアとの連携等、多岐にわたる方法で外部への発信に力を入れているとのこと、今回の講座ではミュージシャンとコラボした映像作品を流す一幕もありました。今回の講座を通して進化したプロジェクトの「今」を感じるとともに、「現代の若者」のおひとりである庭田さんが携わっておられるプロジェクトがどんどん発展していつていることに、大きな感動と希望を感じました。(2021年9月26日実施)

パネル展の感想紹介

庭田さんの講演に先立ち、当時の写真をカラー化したパネル展示が開催されました。来館いただいた方の感想をご紹介します。

大変貴重な取り組みと思いま

た。カラーによって、生々しく当時間がよみがえります。生命ある日常が一瞬にして失われた悲惨さが一層際立ってきました。

・歴史の授業で出来事として習ったものが、今の私たちと変らない生活感や日常の中にあつたんだと感じました。出来事としてではなくて、その当時の生々しさを今後伝えていくべきと思いました。

・1人でお散歩しているときに立ち寄りました。モノクロで見ると写真はとも昔の事で今の私達と重ねる感覚にならないものだったけれど、カラーになった瞬間に、今の私達と何も変わらない暮らし、幸せ、営みがあったのだと改めて感じ、戦争のおそろしさ、今を生きる事の大切さを感じました。



8枚の写真を展示しました (9月21日~26日市民交流ロビーにて)

・テレビや新聞では見せていたいただきましたが、やはり直に見ると違いますね。私はきのこ雲がオレン



広島原爆のきのこ雲

ジ色だったということを知り、恐怖を覚えました。正に映像の迫力です。白いきのこ雲とは全く違います。実際に目にした方はどんなに恐ろしかったことか……。AIで「簡単に」カラー化出来たのかと思っていたが、実際には当事者の証言などを積み上げて、手作業で仕上げるという莫大なエネルギーがあつたのだ。驚きと共に深く感動した。

・白黒からカラーへの写真の変化は、時空を超えるような感覚、また写真の中に引き込まれるような感覚となり、胸がドキドキしました。「記憶の解凍」という言葉が体感できた気がしました。

・カラー写真をみると、よりリアルにその時の情景が感じられました。日常生活を平和におだやかに暮らしていた事が感じられました。年を重ねるごとに、戦争のない地球、世界中で連帯していかねばならないと感じます。



文化・芸術講座参加者の声

9月12日・10月3日・10日の3回連続で「文豪たちの傑作手紙」の講座が開催されました。新しい年を迎え、文豪たちのように、みなさんも手紙を書いてみませんか。

手書きで便りをする喜び

—文豪たちの傑作手紙全3回を聴いて—

佐藤 頌子

文豪たちの傑作手紙と題して行われた手紙文化研究家・コラムニスト中川越さんの熱のこもった講座内容をお伝えしたい。

ユーモア、感動、表現の工夫、恋愛の4部門に分け、えりすぐりの各3通を読み解き、解説をしていただいた。

まずユーモア部門第1位は漱石から野村伝四くんへのハガキ。「ビスケットをかじりて 試験の答案を検査するに ビスケットは

ずんずん方付くけれども 答案の方は一向進まない(後略)」。野村伝四は漱石の東京帝国大学の教員、在学中漱石の教えを受け、同級生にうらやましがられるくらい漱石宅に頻繁に出入りしていた。

感動部門第1位は漱石から芥川龍之介・久米正雄にあてたもの。「あなたがたからの端書(はがき)がきたから奮発して此手紙(このてがみ)を上げます。僕は不相変(ふあいかわらぬ)『明暗』を午前中書いています。心持は苦痛、快樂、器械的、此三つ(このさん)をかねています。(中略) 君方(きみかた)は新時代の作家になる

積り(たまり)でしょう。僕も其積(そのたまり)であなた方の将来を見ています。どうぞ偉くなつて下さい(後略)」。

恋愛部門第1位は立原道造が水戸部アサイにあてたもの。「僕の中かには優しい小鳥が住んでいます。ピンク色の微笑(ほほえみ)や(後略)」。

太宰治はたった4文字で人生の欄外(らんがい)に置くべき哀しい情熱(じやうねつ)を印象深く伝えたが、その4文字とは「コヒシイ」。

最後に、「朧雲(だううん)拜誦(はいじゆ) (あなたの美しい手紙をつつしんで読ませていただきました)」という最上級の感謝を表わす言い方を教わりました。私も手紙の相手にそのように思ってもらえるよう、精進したいと思いました。

たくさん文豪たちの特徴をうまくとらえられた中川さんのイラスト、文豪たちの手紙の理解に大いに役立ちました。



イラスト入りテキストも好評でした

〈一橋大学連携講座〉

「時代劇」を振り返る～ “生き死に”の型、人の世の夢～

講師 武村 知子 (一橋大学)

戦後しばらく、日本映画の半数は「時代劇」だったといわれます。2000年以降の時代劇と、黄金時代の時代劇とは、見ていてどこか違うけれど、いったい何が違うのか？ かつてのファンは、次々と作られる一見大同小異のドラマのどこに、尽きぬ興味を見出していたのでしょうか？

いつからか時代劇が軽視されるようになったのは、それが「型にはまった」お決まりごと満載のドラマだから。でも「型」とは一体何でしょう？ 物語の型、人物の型、所作の型、映像と音声の型、よく見ると種々様々な「型」が絡まった複雑なネットワークのようなものが、時代劇世界全体を支え躍動させてきたことがわかります。時代劇が「国民的娯楽」だったころ、それは人々の目にどのように映っていたのか、そして今はどのように映るのか。この講座では、いろいろな映画やドラマの断片をご一緒に見て、その「見えかた」について世代を超えた意見交換を行い、

時代劇史を参照しながら、かつての魅力とその崩壊について考えます。下の予定はあくまで予定。皆さんの興味関心次第で、思わぬ展開をするかもしれません。

- ◆第1回 2月18日(金) 昼2時～4時
『薩摩飛脚(1955、右太衛門)』とヒーローのかたち
- ◆第2回 2月25日(金) 昼2時～4時
『薄桜記(1959、雷蔵)』と生き死にの型
- ◆第3回 3月8日(火) 昼2時～4時
『大菩薩峠(1965、仲代)』と殺陣のいろいろ
- ◆第4回 3月15日(火) 昼2時～4時
「テレビドラマさまざま——子供に何を見せたいか」

ところ 公民館 3階講座室 定員 15名(申込先着順)
申込先 1月11日(火)朝9時～
公民館 ☎(572) 5 1 4 1



〈図書室のつどい〉

オンライン
受講可能

アイヌの物語世界



お 話 中川 裕 (千葉大学名誉教授)

アイヌの人々は、彼らが生活するうえで大切にしてきた価値観を物語にすることで古くから受け継いできました。文書ではなく、語り継がれることに大きな特徴のあるアイヌ文学は、語り手が減っている現在、言葉や文化の存続が危惧されています。

今回はアイヌ文学の魅力についてお話しいただき、彼らの独特な世界観や文化に触れる機会としたいと思います。

〈中川さんの本〉

表題作 (平凡社)、『アイヌ語をフィールドワークする』(大修館書店)、『アイヌ文化で読み解く「ゴールデンカムイ」』(集英社新書) ほか多数

と き 2月12日(土) 昼2時～4時

ところ 公民館 3階講座室

定 員 会場受講:25名 オンライン受講:30名

※いずれも申込先着順

申 込 1月13日(木)朝9時～2月9日(水)夕5時



〈作家と作品〉

ミヒヤエル・エンデの物語



講 師 堀内 美江 (ドイツ文学者)

『モモ』や『はてしない物語』など、世界中で愛読されるエンデの物語。どこまでも想像のふくらむ不思議なファンタジーでありながら、現代社会を鋭く見つめて描かれた作品は、社会と、そこに生きる私たち読者自身についての深い洞察に満ちています。

世界大恐慌が発生した1929年にドイツに生まれ、青春期に第二次世界大戦を経験したエンデは、波乱万丈な人生を過ごしながら、現代社会におけるあらゆる分野について深い思索を重ねていきます。また、子ども向けの物語から大人向けの幻想的な作品まで幅広く発表するエンデは、自らの作品を何かの「教訓」のように読まれることには反対し、読者の中で様々な色に輝くことを望んでいました。

エンデはどんな人物で、どのように物語を紡いだのでしょうか。今回は、エンデのあゆみや物語の世界について、生前のエンデとも親交があった堀内さんにお話を伺います。

と き 2月25日、3月4日、11日(全3回)

いずれも金曜日、昼2時～4時

ところ 公民館 地下ホール

定 員 40名(申込先着順)

※原則3回続けて参加できる方

申込先 1月14日(金)朝9時～

公民館 ☎ (572) 5 1 4 1

〈図書室のつどい〉

日本の裁判所、裁判官、 裁判とその制度的・構造的な問題

お 話 瀬木 比呂志 (明治大学)

裁判官という職業とその仕事、裁判官たちの人間としてのあり方、彼らをコントロールしているシステムの問題点、そして、裁判官の本質・役割とあるべき姿はどのようなものなのでしょうか。

33年間の裁判官生活の後大学教授となり、多数の一般書や専門書を書かれている瀬木さんに、日本の裁判、裁判官システムの諸問題とその改善策など、現状と課題についてお話しいただきます。

〈瀬木さんの本〉

『檻の中の裁判官——なぜ正義を全うできないのか』(角川新書)、『絶望の裁判所』(講談社現代新書) ほか

と き 1月23日(日) 朝10時～12時

ところ 公民館 地下ホール

定 員 40名(申込先着順)

申込先 1月7日(金)朝9時～

公民館 ☎ (572) 5 1 4 1



オンライン
受講可能

〈男性講座〉

男らしさを紐解く、初めの1歩、2歩 “よかれと思ってやったのに...”その本音から探る

講 師 清田 隆之 (恋バナ収集ユニット「桃山商事」)

学校生活、就職や昇進、結婚、子育てなど、周りから求められる「男らしさ」に対してモヤモヤを感じていませんか。男性だけで語らいながら、その正体を考えます。

第1回では、「男だから」と口に出せないモヤモヤ、イライラ、ビクビク、わからなさなどの気持ちを語らい、内面やふるまいに「男らしさ」がどう影響しているか、社会的背景も踏まえて講師と紐解いていきます。第2回では、職場や家庭などで、よかれと思ってやったことが裏目に出て、失望される。女性の視点からもそのふるまいを振り返り、その傾向や問題点を考えます。

「男らしさ」に焦点を当て、自分の内面や言動を振り返り、今後活かしていきます。

第1回 1月28日(金) 夜7時～9時

「口に出せない気持ちに潜む、男らしさを紐解く」

第2回 2月4日(金) 夜7時～9時

「裏目に出るふるまいを振り返り、向き合い方を考える」

ところ 公民館 3階講座室

定 員 会場受講:25名 オンライン受講:30名(申込先着順)

※対象…男性

申 込 1月7日(金)朝9時～26日(水)夕5時

《くにたちブッククラブ 人生、野を越え山越えて》
松本清張『或る「小倉日記」伝』
(角川文庫)

講 師 大木 志門 (東海大学・日本近代文学)

と き 1月6日(木)夜7時半～9時半

と ころ 公民館 地下ホール

申込先 公民館☎(572) 5 1 4 1

*この講座はあらかじめ作品を読んできて、参加者が読み
を出しあいます。そのあと講師のお話を聞きます。

《親子で遊ぼう・考えよう》

紙バンドでアートな帽子、お面を作ろう

紙バンド(硬く平たい紙テープ)を自由につなげてオリジナルの帽子や兜、お面を作ります。紙バンドの素材を生かして自由でダイナミックなお面を作ります。

※手芸として編んだり作り方を教える講座ではありません。

講 師 山田 修平

(NPO法人東京学芸大こども未来研究所)

と き 2月13日(日)朝10時～12時

と ころ 公民館 地下ホール

- 持ち物
- ・飲み物
 - ・お手拭き
 - ・いらない毛糸やお菓子の箱
(家庭にあればお持ちください)

対象・定員 子ども(5歳以上～小学生)と保護者9組
(1組4名まで)(申込先着順)

申込先 1月20日(木)朝9時～
公民館☎(572) 5 1 4 1

～オンライン受講可能な
講座の申込先～

会場受講：公民館☎(572) 5 1 4 1

オンライン受講：

✉ sec_kominkan@city.kunitachi.lg.jp

→参加方法の詳細は、前日までにメールいたします。

※申込みメールには以下の項目を明記してください。

件名：申込みを希望する講座のタイトル

本文：①氏名

②ふりがな

③住所

④電話番号

件名
「〇〇〇講座」オンライン受講の申込み

①国立太郎
②くにたち たろう
③国立市〇〇丁目〇〇番地の〇
④042-〇〇〇-〇〇〇〇

メール画面参考▶

当日、参加者側の環境における接続や音声・映像の不具合についてのお問い合わせには対応できませんのでご了承ください。

シネボックス (CINEVOX 公民館映画会)
『男はつらいよ・柴又慕情』
松竹 1972年 カラー108分 ※DVD版

監督・原作・脚本 山田洋次 音楽 山本直純

出演 渥美 清、吉永小百合、倍賞千恵子、松村達雄、
三崎千恵子、前田吟、宮口精二、笠智衆 ほか

「わたくし 生まれも育ちも葛飾柴又です。帝釈天で産湯をつかい、姓は車、名は寅次郎、人呼んでフーテンの寅と発します！」今なお日本人に愛され続ける国民的キャラクター、ご存知《フーテンの寅さん》が巻き起こす、恋と笑いと人情の大騒動！今回は、マドンナに吉永小百合を迎え、ファンの人気も高いシリーズ第9作を上映します！



と き 1月23日(日)昼2時～(開場昼1時)

と ころ 公民館 地下ホール

定 員 50名(申込先着順)

申込先 1月12日(水)朝9時～ 公民館☎(572) 5 1 4 1

*事前申し込み制となっています。必ず電話もしくは窓口にて事前にお申し込み下さい。

*新型コロナウイルス感染予防のため、途中で10分程度、換気のための休憩を設けます。ご了承ください。

三原色で描く
キミ子方式水彩画展

公民館の主催講座である「シルバー学習室」第42期の水彩画展を行います。

赤、青、黄の三原色と白の絵の具だけを使って、誰でも楽しく絵が描ける“キミ子方式”で描いた「もやし」「空」「毛糸の帽子」などを展示します。

障害者センター「あさがお」、キミ子方式水彩画サークル「絵筆の会」との合同展です。

※「シルバー学習室」は市内に住む概ね60歳以上の方を対象に、料理、リトミック、自然観察、歴史、などを学んでいくなかで、新たな自分の発見や、受講者同士の交流・仲間づくりをしていく講座です。

期 間 2月8日(火)～13日(日)

と ころ 公民館 1階市民交流ロビー

連絡先 公民館☎(572) 5 1 4 1

障害者センター☎(573) 3 3 4 4



ロビーいっぱい絵を飾ります

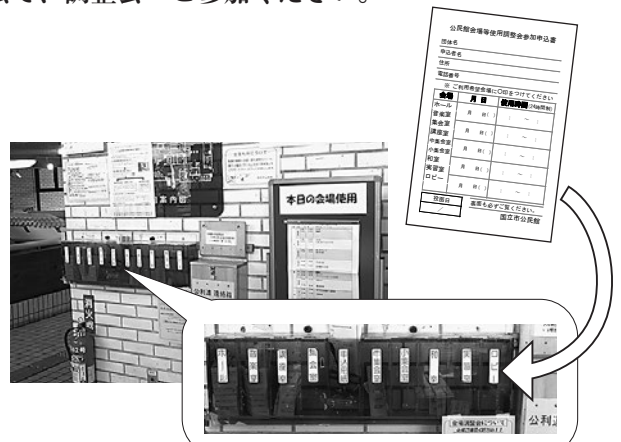
—公民館の会場予約のご案内—

公民館の会場をより多くの団体が利用できるよう、会場調整の場を設けています。引き続き、3つの密を避けるため、ご協力をお願いいたします。

3月～6月（ロビーは4月～7月）の利用希望は以下の方法で、調整会へご参加ください。

★「公民館会場等使用調整会参加申込書」の提出

公民館1階入口正面の会場別ポストに「参加申込書」を入れてください。
ポスト投入期間は、以下の表(■今後の会場調整会日程)のとおりです。



申込みに重なりがあった団体へのお知らせ

以下の表の日程で、会場別ポスト付近に掲示します。
ホームページでもお知らせします。



「参加申込書」は、入口正面にあるポストに投入してください。

▲QRコードからもご確認いただけます。

掲示のあった団体 …会場調整会への参加

調整会へは、1団体1名、第1希望が取れなかった場合の別の候補日や会場を想定して、最終的な判断ができる方がご参加ください。(開始時間に遅れたり、不参加の場合は、使用希望は消しとなります。)

掲示のなかった団体

会場調整会翌日以降
2階事務室へ本申込みに
お越しください。
(会場調整会当日は、本
申込みはできません。)

★「参加申込書」を提出していない団体の予約方法

- ・ 2階事務室での受付…調整会当日の午後2時～
 - ・ 電話での仮予約…調整会当日の午後3時～
- ※受付時間:午前9時～午後5時(月曜、祝日、年末年始を除く)

* 詳細や不明な点は、公民館までお問合せください。
* 会場調整会は、公民館利用者連絡会のご協力により実施しています。

公民館 ☎ (572) 5141

■今後の会場調整会日程

(※いずれも午前10時～)

使用希望月（ロビー）	申込書のポスト投入期間	重なり団体の掲示日	※会場調整会
3月（4月）	1月8日（土）～1月27日（木）	1月29日（土）～	2月5日（土）
4月（5月）	2月5日（土）～2月24日（木）	2月26日（土）～	3月5日（土）
5月（6月）	3月5日（土）～3月24日（木）	3月26日（土）～	4月2日（土）
6月（7月）	4月2日（土）～4月28日（木）	4月30日（土）～	5月7日（土）



「今年も守りますよ！」

撮影 和賀 一さん

(フォトサークルくにたち)

ひろば

(8ページにもあります)

「禁じられた遊び」ギター講習
普及版と易しく編曲した楽譜を用いて行います。くにたちギタークラシカ主催。講師は3人のギタリストに師事した会員。3～5月全6回。若干名募集。無料。
日時 第1・3木曜日 11～12時
場所 西福社会館など
連絡先 こみや090(4027) 6974
フットサルチーム「ソラーナ」
市内で活動中の男女エンジョイサークルです。10～50代まで幅広い年代で毎週汗を流しています。C級指導員によるサポート有り。体験からでも気軽にご連絡下さい。
日時 毎週日曜日 昼3時～6時
場所 市内小学校 体育館
連絡先 磯080(325) 6711

公民館各会場 定員についてのお知らせ

新型コロナウイルス感染者数の減少に伴い、12月1日より、公民館各会場の定員の制限を解除してご案内しています。

ホール 85名	中集会室 20名
音楽室 20名	小集会室 10名
講座室 35名	和室 20名
集会室 30名	実習室 10名

今後の動向により、会場の定員に変更があった場合は、随時公民館内での掲示やホームページでお知らせいたします。

ご不明の際はお問合せください。
公民館 ☎ (572) 5141



会場の定員について▲

※引き続き、下記の通り感染症予防対策
にご協力お願いいたします。



公民館へご来館の際のお願い

平素は新型コロナウイルス感染症予防対策にご協力いただきましてありがとうございます。

引き続き感染拡大防止のため、講座参加と会場ご利用の際は、以下の点にご留意ください。よりよい学習環境を保つために皆様のご協力をお願いいたします。

- ・自宅検温してからお越しください。(発熱37.5℃以上、咳、咽頭痛等の症状のある方はご来館をご遠慮ください。)
- ・マスクを着用してください。
- ・石けん等による手洗いや消毒液による手指の消毒を行ってください。
- ・過去2週間以内に感染拡大の地域や国へ訪問歴のある方はご来館をご遠慮ください。
- ・会場のご利用にあたり、サークル・団体の代表者等は、参加者氏名と緊急連絡先を必ず把握し、保健所等から依頼があった場合は、参加者名簿を提示してください。
- ・会場はこまめに換気してください。

公民館運営審議会報告

12月14日(火) 第33期第14回定例会を開催。委員14名、館長職員2名出席。傍聴者4名。
前回議事録確認

若干の修正を確認した。

報告事項

○公民館だより編集研究委員会(編集研)、社会教育委員の会、東京都公民館連絡協議会(都公連)について報告があった。都公連からは第58回研究大会(12月11日(土))の報告があった。

協議事項

○次年度職員体制要望について市長・教育長面談(11月17日(水))の報告と意見交換、回答を共有。
○館長人事における公民館運営審議会の役割について法規や歴史を

共有、討議は次回。

○社会教育学習会(パネルディスカッション)「コロナ禍における学びとつながり」公民館の役割と期待すること(12月18日(土))に向け担当委員より内容の報告、当日の役割を分担。

○諮問「新型コロナウイルス感染拡大時における教育機関としての公民館事業について」答申に向けて、記録班、アンケート班、検証・提言・文案執筆班の各班より打合せ内容と進捗状況の報告、全体で討議。今後のスケジュールについて再確認をし、8月に提出目標とする提案あり。

○次回定例会は1月11日(火)夜7時15分から地下ホール。感染症予防の上、傍聴歓迎。

(野口)

今月の公民館 (1月～2月中旬)

- 1月6日(木)夜 くにたちブッククラブ
松本清張『或る「小倉日記」伝』
- 7日(金)夜～ ★「LGBTだけじゃない、性別の話」
- 23日(日)朝 図書室のつどい『日本の裁判所、
裁判官、裁判とその制度的・構造的な問題』
- 23日(日)昼 ★人権講座
「“かぞく”のかたちを考える」
シネボックス CINEVOX『男はつらいよ・柴又慕情』
- 28日(金)夜～ ★男性講座
「男らしさを紐解く、初めの1歩、2歩」
- 2月12日(土)昼 ★図書室のつどい
『アイヌの物語世界』
- 13日(日)朝 親子で遊ぼう・考えよう
「紙バンドでアートな帽子、お面を作ろう」
- 18日(金)昼～ 一橋連携講座「時代劇」を振り返る
- 25日(金)昼～ 作家と作品
「ミヒャエル・エンデの物語」

★はオンライン受講可能な講座です。

講座の開催状況などに変更があった場合は、公民館入り口付近への掲示や、ホームページでお知らせいたします。ご不明の点はお問合せください。

公民館 ☎ (572) 5141



公民館の状況▲



ぼけの花(矢川公園の近く)
撮影 山田 糸子さん(西)

ひろば

(7ページにもあります)

数学を楽しむ集い(1月期)

黄金比の仲間たち、計算の難しさの尺度のお話です。数学の思いがけない使い方がお分かりいただけます。どなたでも気軽に挑戦下さい。参加の方は、お電話を。

日時 1月8日(土)昼1時～
場所 公民館 集会室、講座室
連絡先 山本(572)1028

くにたち国際友好会WING

1月の国際理解講座はミャンマーについて日本で働くテッテツ・チヨエさんにお話していただきます。オンラインで行いますので、事前申し込みして下さい。

日時 1月22日(土)夜7時～9時
場所 Zoomで行います。
連絡先 和田090(349)2110



公民館図書室 休室のお知らせ

2月1日(火)から3日(木)まで本の点検・整理のため休室します。

*新聞は、朝9時～夕方5時の間、
2階事務室前で閲覧できます。



絵手紙 桐の会

〈サークル訪問363〉

柿、みかん、ススキ、紅葉しかけた落ち葉数枚……。この日、公民館集会室には秋がいっぱいにあふれていた。会員の皆さんは慣れた手つきで筆を持ち、秋の恵みを描いていく。笑顔でおしゃべりもしながら、個性あふれる絵手紙が次々と仕上がっていく。

絵手紙を始めて30年というベテランの片桐宏子さんに手取り足取り教わりながら、私も初めての絵手紙に挑戦した。初めは線を描く練習。筆のてっぺんを持ち、紙と筆が垂直になるようにゆっくり線を描く。横線、縦線、そして渦巻を描くのだが、ちよつと気を抜くとすぐ筆が斜めに傾いて線が太くなる。しかし言われたとおりに描いているとだんだん絵手紙らしい線になってくるのが不思議だ。絵は大きく、見たままに、まず輪郭を墨で描き、次に顔彩という固形の絵具で色をつけていく。そして短い言葉を書いて完成だ。みかんのはずが柿ともカボチャともいえない不思議なものになってしまったが、それでも絵手紙特有の味のあるものに仕上がった。

一つコメントしていく。それぞれ個性的でありながらどの作品も、見ていると懐かしいような穏やかな気持ちになる。

会員の皆さんによると絵手紙の魅力は身の回りの自然や季節の移ろいに関心を持つようになること、お礼状やお見舞いなど短い文で喜ばれる手紙を書けることだそうです。「手書きで文字を書き、絵もそえて、そんな温かい手紙はほかにありません」と片桐さんは言う。

桐の会は発足が1996年4月、今年度でちょうど4半世紀にもなる。会の雰囲気も絵手紙のようにほっこりと温かく、私も初めて取材にお邪魔したのになんと気が付くとリラックスして楽しんでいて、興味のある方は予約なしでも見学可能。

日時 第三水曜日 昼2時～
場所 公民館
〈文・写真 池田祐子〉



秋をまるごと描いています